

たけふ

TAKUSUI
No. 745

11
November 2018

発行 (一財)兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌



水揚げされたセコガニ (JF但馬)

大日本水産会 水産功績者表彰受賞者決定 大輪田塾修了・入塾式

《今月の海上安全標語》～ 副次的効果! ～

秋も深まり寒くなってきました。JF兵庫漁連が開発した救命合羽。よく浮きます!!

そして風を通さず暖かい!! これからの季節にいかが!

寒ければ 一度着てみよ 救命合羽 では、今月も安全操業で!

ようこそ

「ずっと真っ直ぐに」

(ようこそとは航海用語で「宜しく候」の意。主に船を直進させるときに号令として使われる)

沖合いかつり

JF兵庫漁連但馬支所支所長 塩谷 政人



8月の終わりに底曳と沖いか兼業船の新造船が竣工しました。私にとっては何十年ぶりかに見えるイカ釣り機を装備した新造船。個人的に感慨深いものがありました。

というのも、20代の頃、最初に担当したのが沖合いかつり協会の事務局でした。当時はまだ專業船と底曳との兼業船合わせて80隻程度がいたと記憶しており、この協会の用務を通じて社会人としてのイロハを学び、体験をさせて頂きました。特に初めての海外出張となったロシア(当時はソ連)水域入漁許可申請のために1週間の予定で出向いたウラジオストクへの海外出張は今でも忘れられません。

宿泊したホテルは、数日前にテロで外門が爆破され、完全武装の兵士がお出迎え。また、滞在中はほぼ缶詰状態の中で「今日はロシア側主催の晩餐会です」「今日は塩谷さん主催の晩餐会ですよ」と非日常的な単語に心臓は踊り、唯一の同行者である通訳は酒浸りでろれつが回らず、ロシア側が苦笑するほどの役立たず状態。更には、やっとの思いで受け取った許可書は、監督官の奥さんが自宅でサインして発給したものと驚きのカミングアウトつき。気を取り直し、やれやれ帰れるぞと向かった空港の待合室は、プレハブ小屋でデコボコの地面に長いすが数脚。当然、売店や自販機も無く、共産圏の質素さを噛み締めながらひたすら飛行機を待ち続ける有り様でした。

あれから約25年。但馬では兼業船3隻のみと大きく減少しましたが、その内の1隻が新造船となり、2隻にも代船建造の計画があると聞いています。近年の漁場は遠く離れた北海道沖ですが、魚価が高値で推移しているのが好材料。願わくば、海上安全でこの3隻がこれからもおいしいスルメイカを食卓に届け続けてくれますように……。

CONTENTS

No.745 November. 2018

- 2 ようこそ
- 3 大日本水産会 水産功績者決定
第38回 全国豊かな海づくり大会 高知大会
- 4 松葉ガニ漁解禁
兵庫県水産技術センター研究発表会
- 5 淡路水交会「漁業者による森づくり」
淡路市岩屋 ～御手洗池かいぼり～
- 6 地引網体験
播磨地区漁協職員協議会 学習会
- 7 たつの市立室津小学校 郷土料理給食会
第40回 兵庫県民農林漁業祭
- 8 大輪田塾だより
- 9 兵庫JCC通信
- 10 旬に想う
農業×漁業の若手組織連携プロジェクト



「水揚げされたセコガニ」(JF但馬)

表紙の言葉

(画像提供: JF兵庫漁連 松岡頼都さん)

日本海の冬の味覚、松葉ガニ漁。いよいよ解禁となりました。

画像はJF但馬香住支所へ水揚げされた松葉ガニのメス「セコガニ」です。この日を待ちわびた仲買人らが威勢よくカニを競り落としていました。

松葉ガニやセコガニは、但馬地区の貴重な観光資源として、水産加工業・観光業をはじめ地域経済を支える重要な資源です。カニを待つ人々が、今後の漁模様に期待を寄せています。

大日本水産会の平成30年度水産功績者が決定

～兵庫からは隅谷 健児氏(前JF林崎代表理事組合長)が受賞～

大日本水産会(白須 敏朗会長)は、10月16日(火)に平成30年度の水産功績受賞者32名を決定し発表しました。

兵庫からは、水産業の振興と発展に功績があった隅谷 健児(前JF林崎組合長)が選ばれました。

表彰式は、11月29日(木)に東京で開催され、農林水産大臣・水産庁長官が臨席し行われる予定です。

心よりお慶び申し上げますとともに、今後益々のご健勝とご活躍を祈念いたします。



隅谷 健児 氏

(前JF林崎組合長)



稚魚を放流される天皇皇后両陛下(代表撮影)



大会決議を朗読する岸大会推進委員会会長(代表撮影)

第38回全国豊かな海づくり大会 高知大会 「テーマは「森・川・海」がやく未来へ水の旅」

10月27日(土)、28日(日)の両日、「第38回全国豊かな海づくり大会 高知大会」高知市で開催され、同大会に併せた物産販売、企画展示、体験コーナーなどの関連行事も含め、多くの来場がありました。式典は28日に高知市文化プラザかるぼーとで行われ、会場には天皇・皇后両陛下をはじめ、全国の水産関係者が出席しました。式典では、大島 理森大会会長(衆院議長)が、両陛下が皇太子同妃両殿下の当時から本大会に臨席されてきたことについて触れ、「多くの人が海と漁業への関心を深め、豊かな海づくりに参加するようになった。心から御礼を申し上げます」と謝辞を述べました。尾崎正直高知県知事は「今大会を契機に森・川・

海繋がりを意識し、自然環境を守り育てる気持ちを、未来を担う子供たちにしつかりと繋いでいきたい」と挨拶しました。このあと、功績団体表彰が行われたあと、作文コンクール中学生の部で最優秀賞を受賞した明神陽奈子さん(高知県土佐市土佐南中3年)による作文「思い出とともに」を読み上げました。その後、両陛下から漁業後継者へのアマゴ・カジメ・アサリなどの稚魚がお手渡しされました。その後行われた大会決議採択では、岸大会推進委員長(JF全漁連会長)が大会決議を朗読し満場の拍手をもって採択され、最後に尾崎高知県知事から次期開催県の佐竹敬久秋田県知事へ大会旗が引き継がれ終了しました。

松葉ガニ二漁解禁!!

日本海の冬の味覚、ズワイガニ（松葉ガニ）漁が、富山県から島根県までの1府6県で11月6日（月）に一斉に解禁となりました。日本一の水揚げを誇る兵庫でも、JF但馬、JF浜坂所属の沖合底曳船48隻が次々に出港し、解禁の午前0時を待って一斉に網を投入しました。

初競りは同日午後から行われ、JF但馬柴山漁港では「松葉ガニ初せりまつり」が開催され、観光客や地元住民らがセコ汁を味わうなど、各浜は初水揚げに活気づきました。

この漁の操業は3月20日まで行われますが、11月中旬に公休日を設定し、各船が36時間以上の休みを2回設ける、



船に水揚げされた松葉ガニ
(画像提供：JF浜坂美寿丸)

メスガニ（セコガニ）は12月31日まで、若マツバガニ（ミスガニ）は1月20日から2月28日までと漁期を短縮する資源保護の取組も行われています。いよいよ解禁となった松葉ガニ漁。今漁期の豊漁と安全操業を祈念します。

平成30年度 兵庫県水産技術センター研究発表会を開催



兵庫県水産技術センターでは、日頃調査研究している課題や、その成果を水産関係者にお知らせするとともに、広く県民の方々に水産業を身近に感じ理解を深めていただくことを目的に研究発表会を開催しており、今年度は10月24

日（木）に開催されました。研究発表会では、県水産技術センターの研究内容に加え、淡路地区漁協青壮年部連合会からも実績発表が行われました（別表参照）。県内の漁業者をはじめ、JF関係者、行政や研究機関関係者、一般参加者等、数多くの方の出席し、本県の水産試験研究の最新成果を理解する機会となりました。



発表内容	発表者
2018年春季の貝毒原因プランクトンの大量発生と二枚貝の毒化	水産技術センター水産環境部 主席研究員 宮原 一隆
ヒラメのウイルス病について	水産技術センター水産増殖部 主席研究員 中村 行延
淡路島の一次産業活性化に向けた取り組み	淡路地区漁協青壮年部連合会 会長 山崎 大輔
ベニズワイガニ資源をいつまでも ～但馬沖での漁獲・加入動向と資源管理～	但馬水産技術センター 主席研究員 大谷 徹也

(発表順：敬称略)

淡路水交会の「漁業者による森づくり」 ～南あわじ市阿万小学校児童も参加しての植樹活動～



一般社団法人淡路水交会（東根壽会長）が主催する「漁業者の森づくり」が11月6日（火）、南あわじ市の山林で行われ、ウバメガシ600本を植樹しました。

この活動は、漁業者がウバメガシや間伐材を使った、柴漬けによる産卵床の設置によりアオリイカなどの水産資源の増大を図る活動と、一般県民と力をあわせた漁業者の森づくり活動を連携して行い、環境保全と地域貢献を図るもので、今回で10回目となります。

当日は島内JF役職員、漁青連、女性連のほか、行政や系統団体、さらに南あわじ市阿万小学校3年生児童28人を加えた約170名が集合しました。参加者は植樹手順の説明の後、苗木と土嚢に入った土を次々に運び込み、用意した苗木を植樹しました。また、児童らは、県洲本農林水産振興事務所担当者から説明を受け、森・川・海の関係についても学習しました。

豊かな海の再生に向けて、また、アオリイカ増殖に繋がる「森づくり」事業は、今後も淡路の各地で展開されていきます。



阿万小学校3年生のみなさん



丁寧に植えました

淡路市岩屋

御手洗池かいぼり

11月3日（土）、淡路市岩屋町の御手洗池で、栄養分放流のための泥のかき出しとため池の水質浄化やメンテナンスを同時に行う「かいぼり」が行われ、JF淡路島岩屋や田主、農業関係者、県職員など約80名が参加しました。

かいぼりは古くから淡路島をはじめ播磨地域でも行われていますが、近年はため池管理者の高齢化や人手不足等でその頻度も落ちていきます。当池の田主の上林良之氏は「6年ほど前から冬の時期に2週間ほど水を抜く作業は行っていたが、かいぼり作業は約30年ぶりとなる。漁業関係者の皆様の力添えをいただき感謝します。」と話されました。

作業はJF淡路島岩屋の漁業者を中心に行われ、魚を池からリレーで水槽へ運んだ後、消防用ポンプの水圧を利用して池底の泥をかき混ぜながら作業を行いました。が、池の底層部分には1m程度の泥が堆積していたため詰まりが生じ、詰まりを解消しながらの作業となりましたが、栄養豊富な泥水が水路を通じて海へ放流されました。



また、地元の子供たちが作業を見学するとともに保護されたコイに触れ大きな歓声を上げていました。子供たちやその保護者など多くの人々に池や海との繋がりについて学んでいただくと共に、豊かな海の再生に繋がることを期待します。



地引網体験

10月23日(火)、森漁協4Hクラブ(灰野吉一部長)と仮屋漁協青壮年部(戎俊輔部長)は、JF森北側の浜辺で地引網体験を行いました。この取り組みは淡路地区漁協青壮年部連合会が淡路の魚介類を広く宣伝し、消費することを目的に行う「淡路の魚PR大作戦」の一環として行われ、淡路市学習小学校6年生44名と仮屋保育所年長組42名が参加し、両青壮年部メンバーが仕掛けた網を「よいしょ、よいしょ」と声を掛けながら引き上げました。

網の中にはタコやタイ、ハゲなどの魚介類があり、元気に跳ねる魚に子どもはもちろん、保護者やスタッフからも大きな歓声が上がりました。

参加した子供たちが漁業を体験し、地元で獲れる魚を知ると共に豊かな自然に触れることで、ふるさとを大切に心を養うとともに魚好きな子どもになってほしいと切に願います。



播磨地区漁協職員協議会 学習会 ～兵庫楽農生活センター～



播磨地区漁協職員協議会(澤浦 博光会長・JF家島)は、10月19日(金)に神戸市西区にある兵庫楽農生活センターを訪れ、学習会を開催しました。

この学習会は異業種である農業についての取組を学び、多様な知識を深めることにより漁協職員間および系統職員の知識向上と相互理解を深めるために企画され「農を学び農を体験する!そして、食を楽しむ」をコン

セプトに28名が参加しました。

まず、兵庫楽農生活センターの概要や当センターが開催している楽農学校についての取組や野菜栽培の知識について説明を受け、その後の質問時間では、農業での新規就業者への補助について質問し、農業では兵庫県独自の助成がある事と、その仕組みについて説明を受け、異業種での助成金についてなどを学習しました。

昼食は「楽農レストラン 育みの里かんでかんで」にて地元でとれた野菜中心の様々な料理を楽しみ、昼食後は農場へ移動し、どこから切ればよいか等、担当者から指導を受けたのち、ピーマン・ブロッコリー・キャベツの収穫体験を行いました。

海を離れ、漁業とは違った一次産業である農業のについての知識を得ると共に、職員間の相互理解を深める良い機会となりました。



たつの市立室津小学校で 郷土料理給食会



室津で水揚げされる新鮮な魚や地元の野菜を使った「郷土料理給食会」が11月6日（火）、たつの市立室津小学校で開催されました。この給食会はJF室津やJF室津女性部（山田奈保美部長）、地域の皆さんが町ぐるみで取り組んでおり今年で15回目になります。

地元食材を使った献立となっており、室津小学校の生徒がJF室津女性部などの指導により調理を担当し、お昼前には同校の体育館には、骨せんべい、エビの甘酢あんかけ、ほうれん草のごまあえ、地元で伝統の「友君ようかん」など、室津産と郷土料理にこだわった品々が並びました。



豊かな海について学習しました

保護者、学校関係者、地域の皆さん、市関係者、幼稚園児たち約100人が集まり、食事を楽しましました。また、食事中にJF兵庫漁連が作成した豊かな海について考える動画が放映され、現在の瀬戸内海の状態や豊かな海について学習しました。室津小学校と同女性部が始めたこの会は、回を重ね、児童だけでなく地域の皆さんにも室津地区の地産地消や文化などを知ってもらえる行事として大きな役割を担っています。今後も地域の方々の協力を得て続けられていくことを期待します。

第40回 兵庫県民農林漁業祭 開催

「豊かで美しい海PR」とたこタコライスなどを販売」

10月20日（土）、21日（日）に県立明石公園千畳芝にて第40回兵庫県民農林漁業祭が開催されました。各地域の農林水産物の販売や展示ブース・体験コーナーなど約80展のブースが参加しました。また、同時に「ふれあいの祭典ふれあいフェスティバル in 東播磨」も開催され、2日間で約4万人の人流で賑わいました。

JF兵庫漁連SEAT-CLUBも出展し、兵庫のり・チリメン等加工品を販売し、県内産魚介類をPRしました。また今年も、カゴメ株式会社とコラボし「たこタコライス」の調理販売を行いました。この「たこタコライス」は2016年の兵庫県と沖縄県の提携をヒントに沖縄名物「タコライス」と兵庫特産の「たこ」を、カゴメのトマトソースを使ってアレンジしたメニューで、美味しいと大変好評で再度購入される方も多く、両日ともに用意した200食、計400食を完売しました。



たこタコライス ジュース2つ付で
300円 破格

また同ブースにて、ひょうご豊かな海発信プロジェクト協議会により、多様な生命を育む「豊かで美しい海」の必要性を多くの県民に知っていただくため、兵庫県で営まれている漁業やかいぼりや海底耕耘等の取組を紹介したパネル展示やクイズを実施し、今の海の状態や本当の豊かな海について、来場者に広くPRしました。

2日間とも快晴で来場者・出展者とも笑顔あふれるイベントとなりました。



パネル展示ブース



クイズを実施しました

大輪田塾だより

平成30年度大輪田塾修了式ならびに入塾式開催

第12期生6名が修了

修了生の紹介

氏名(期)	所属
福山 貴久 (12期生)	J F 林崎
上田 剛輝 (12期生)	J F 坊勢
前田 恵吾 (12期生)	J F 坊勢
中山 大輔 (12期生)	J F 淡路島岩屋
中山 達貴 (12期生)	J F 淡路島岩屋
中村 幸司 (12期生)	J F 浜坂

(敬称略・順不同)



修了生の記念撮影

(前列左から:福山さん、上田さん、前田さん、平石水産課長、東根塾長、田沼県漁連会長、中山(大)さん、中山(達)さん、中村さん)

幅広い視野をもった将来の水産業界をリードしていく「浜のリーダー」を育てることを目標に、様々な研修・講義を行っている大輪田塾は、平成30年度大輪田塾修了式ならびに入塾式を執り行いました。今年は10月30日(火)に兵庫県水産会館で行われ、12期生6名が修了するとともに、14期生となる新入塾生8名が入塾しました。

東根 塾長(兵庫県水産振興基金理事長)、県水産課平石 靖人課長を

じめ、同塾運営委員、県・系統役員など約50名が出席するなか、修了式では、修了生が一人ずつ東根塾長から修了証書を手渡された後、「決意の言葉」を述べました。その後、13期生布施達也さん(J F 神戸市)からの「送る言葉」を受けた6名は決意を新たに修了しました。

続いて行われた入塾式では、新入生代表の戎谷道男さん(J F 明石浦)が力強く「誓いの言葉」を述べたのち、13期生土井祐介さん(J F 明石浦)から歓迎の言葉が贈られました。式は、東根塾長の訓辞、来賓の県水産課平石課長、J F 兵庫漁連田沼政男会長から祝辞を頂き、終了しました。

このあと兵庫県水産課山下 正晶副課長による記念講演「兵庫県の海と漁業」豊かな海を考える」が行われました。兵庫県の漁業種類や海の状態など、塾生は熱心に聞き入っていました。

修了生のこれからの活躍を祈念するとともに、新たに加わった14期生の塾での頑張りに期待します。

入塾生の紹介

氏名	所属	漁業種類
戎谷 道男	J F 明石浦	小型底曳
福井 健二	J F 林崎	のり養殖
松本 浩次	J F 高砂	小型底曳
桂 貴昌	J F 坊勢	船曳網
竹内 佑騎	J F 相生	船曳網・カキ養殖
菱谷 維起	J F 淡路島岩屋	船曳網
山本 忠寛	J F 浜坂	漁協職員
奥田 芳憲	日本漁船保険組合但馬支所	系統職員

(敬称略・順不同)



入塾生の記念撮影

(前列左から:桂さん、松本さん、菱谷さん、平石水産課長、東根塾長、田沼県漁連会長、戎谷さん、山本さん、奥田さん 福井さん・竹内さんは都合により欠席)

次世代に 農地・農業を引き継ぐ

JAあいおい

JAあいおいは、「農業生産の維持・拡大」「農業者の販売強化・所得増大」「地域の活性化」を重点課題とした自己改革を進めています。その中で、農業生産を維持し、次世代へ農地・農業を引き継いでいくための取り組みを紹介します。

同JAは、平成27年、19人の農家により農作業受託部会を設立。水稻の農作業受託を行い、29年度は、田植えや代掻きなどのべ588アールの作業を受託しました。今後、同部会を法人化し、活動範囲を拡大することを検討しています。

また、JAでは、地域の農地を活用して、ソバを4.5ヘクタールで栽培しました。10月には、ソバの花を楽しむ「ソバ畑の花見会」を開き、組合員・地域住民から好評を得ました。そして、収穫したソバは業者に製粉、製麺加工してもらい、JAの直売所「ベジーズ館」で販売しています。

さらに、将来の地域農業の担い手を確保するため、一定の所得が得られる農業経営モデルを確立することを模索しています。JAが直営ハウスを設置し、糖度が高いトマト「プチぷよ」や「キャンディベル」などの品種の試験栽培を行っています。



稲刈り作業を請け負う農作業受託部会のメンバー

<http://ja-grp-hyogo.ja-hyoinf.jp/>

兵庫県生協連2018年度 「緊急通行車両担当会議」 を開催

9月26日、兵庫県民会館において「2018年度緊急通行車両担当会議」を開催、10会員生協・1株式会社から7名が参加しました。兵庫県からは、企画県民部県民生活局消費生活課 山浦 萌子氏にご参加いただきました。この会議は、2008年1月に兵庫県と兵庫県生協連が締結した「緊急時における応急生活物資供給等に関する協定書と実施細目」に基づき、応急生活物資の運搬および医療活動を円滑に行うために緊急車両の許可がすみやかに得られるよう制定された事前届出制度について確認することを目的に開催しています。

はじめに「緊急時における応急生活物資供給等に関する協定書・同実施細目」について共有化を行い、続いて緊急通行車両事前届出制度について、さらに2017年度未登録台数の確認や新規、廃車、移動などに関する届出、また、メンテナンススケジュールと申請の締め切りについての確認、質疑応答を行いました。



<http://www.coop-hyogo-union.or.jp/>



旬に想う

写真と文
遊方子



蟹の横這い

◆宮脇綾子氏の「アブリケ魅力展」を観た。野菜や魚など身近なものを、木綿や緋・更紗の質感を巧みに生かした手芸品で、数々の作品の中で赤い布を使った伊勢海老や蟹が素晴らしくて印象に残った。カニは甲殻綱に属し十脚類と短尾類を併せた総称というが、古くからの食材で美味い。冬季の旬にはカニ食べ放題などと観光客を呼ぶ広告が目立つ。茹でた甲羅の赤色は人目を引き付け絶大な魅力があるし、カニ自体に高価というイメージもあって、贈答品としても歓迎される。嵩もソコソコあるため、人寄せには最良の食品のように思う。

◆ズワイガニ（頭矮蟹）の語源は、甲羅が脚と比べ矮小だからで、地方名がすこぶる多い。但馬でマツバガニと呼び、日本海への出漁船が戻ると漁港が活気づく。カニの仕分け基準は細かく、柴山港では100通りに仕分けるといふ。カニづらを見て指の欠損や身の締めまり具合を、瞬時に判断するには年期の入った習練が要る。雌をセコ・若い雄をチャリ、脱皮後で甲羅が軟らかいのをミズガニ等、数種の呼び名がある。冬の山陰は蟹一色に染まる。以前、廃船を沈めて魚礁とし、大和堆では捕獲の蟹を放流した。この作戦はその後どうなっただろう…。

◆北海道・根室半島先端の納沙布岬で、名物ハナサキガニの味噌汁を馳走になった。実に美味である。ハナサキガニはタラバガニよりずっと小さいが、ボイルすれば真っ赤な美しい色に変わる。どちらもヤドカリの仲間だが、貝殻は背負わない。タラバガニは寒流を好み、寿命が雄31年・雌34年と長いが、成長は極めて遅いため資源的な管理には工夫が必要という。タラの棲む海域で生息するのが名前の由来で、タラ漁での船員の不手際から網が海底まで降りてしまい、暫くして慌てて引き上げると見慣れぬカニが掛かっていた。このケガの功名がタラバガニ漁の始まりらしい。活きたカニは、青紫の地に黄褐色のトゲがあり、食べるには少々勇気が必要としたため、当初は捨てられる事もあったそうだ。

◆司馬遼太郎は蟹アレルギーのため、幼少より敬遠して食べなかった。四十歳前後の頃、旭川で昼食して店の人が親切に剥いて呉れたのを口にしたら、夕刻に別の宿に入って激痛・痲痛で難儀した事を書いている。アレルギーの人は禁物のようだ。米国の潜水艦から撮影の、ガラバゴス諸島沖深海底の映像で、熱水の噴き出し口に集まる白いカニや小エビの姿に驚いたが、この目の退化したカニは新種だといふ。こんなカニの神秘性から伝説も多い。明石の和坂には弘法大師に因む「カニが坂」恐怖譚がある。今は終日車の耐えぬ喧噪な所だが…。

農業×漁業の若手組織連携プロジェクト

～淡路産の農水産物イベント第2弾～

淡路地区漁協青壮年部連合会（山崎 大輔会長：JF淡路島岩屋）は、洲本市の農業後継者グループ「洲本市農業青年会議」と協力して、淡路島の農水産物PRや漁業やおさかなを知って



タッチングプール



みかんチャレンジ

もらおうと、11月4日（日）淡路市ハイウェイオアシスで第2回PRイベントを開催し、青年部員たちで作成した淡路島のお魚販売店マップ（改良版）をはじめ多くのPR広告を配布するとともに、アンケート調査を実施しました。

アンケートにご協力頂いた方が参加できるチャレンジ企画では、みかんの重さ1kgを測る「みかんチャレンジ」、ワンコインでビニール袋にみかんを詰める「みかん詰め放題」を実施し、大行列が出来るほどの盛り上がりで賑やかな声が入り、また人を呼び前回よりも多くのアンケートを集

めることができました。

また、タッチングプールでは大勢の子供たちが水槽を取り囲み、普段見たり触ったりすることが出来ない、生きているサメやアナゴ、タコに大興奮の様子でした。今回は小さい水槽に鑑賞できる海水魚も入れて、大人の人にも楽しんでもらえるよう工夫したので、お父さん、お母さん、子供さんと家族で楽しい時間を過ごしてもらえました。

アンケート結果によると、淡路島への旅行目的は観光・飲食・買い物に大きく3つに分けられ、「淡路島といえば？」という質問では、やはり玉ねぎが圧倒的に1番だった。飲食では魚が一番多いが、買い物では野菜・果物に負けていることが分かったので、今後の活動としては、この結果を参考に次の事業についての打合せを行い、さらに淡路島の食材や地域の重要な産業である一次産業を広くPRしていく活動へ結び付けていく予定です。（文：淡路地区漁協青壮年部連合会）

